令和元年度　唐津市立西唐津小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
学ぶ力とかかわる力を持ち、たくましく生きる児童の育成	①知：やる気⇒学力向上に積極的に取り組む。 ②徳：ほん気⇒思いやりの心を持ち「人・もの・こと」と関わる心を育てる。 ③体：げん気⇒安全・安心な学校づくりに取組む。 ④保護者・地域等との連携を推進する。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　知：やる気（学力向上に積極的に取り組む。）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	子どもが活動する授業づくりができているか。	・学習規律の確立（徹底化） ・国語科では、3年生以上の学年においては、【ローマ字の習得】、算数科をでは、復習にも力を入れて、基礎・基本の力を児童につけてきく。。 ・また、児童を発言・発表（説明）等も多く授業に取り入れて、指導していく。	・指名後の「はい」の返事の徹底化等のため、粘り強く継続指導を行う。 ・ノート整理の訓練、習熟あるいは、授業効率化のためのワークシトの有効活用も継続実施。 ・学習状況調査等の分析結果を基に、重点的に指導が必要な領域・単元については、特に、力点を置いて指導を行う。
	○ICT利活用教育の推進	教職員のICT利活用能力は向上しているか。	・「全員が使う、全員が使える」を目指し、全職員がICTを有効に活用した授業に積極的に取り組む。	・視覚的に有効なデジタル教科書や電子黒板を積極的に使い、授業に役立てる。 ・校内ランの有効利用を呼びかける。 ・電子黒板との接続の点検や動作の悪いパソコンの点検を行い、修理等を依頼する。 ・児童、教職員の情報モラル研修を行う。
	● 志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・ 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を90%以上にする。	・ 全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。

②　徳：ほん気（思いやりの心を持ち「人・もの・こと」と関わる心を育てる。）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	温かい学校・学級づくりができているか。	・児童用アンケート項目「学校生活が楽しい」の達成率を95%にする。	・生活・いじめアンケートやQUテストを実施し、配慮の必要のある子については担任と話し合いながら手立てを提案する。 ・カウンセラーと連携し、授業の中で構成的エンカウンターなどの仲間作りについて取り上げ、児童の意識を高める。 ・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。
	●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができているか。	いじめアンケートや月初めの「西小よい子アンケート」の結果をもとに、気になる点については、担任、生活主任、SC、SSWなど複数で連携して、早急に解決にあたる。	・Q－Uアンケートや毎月「西小よい子アンケート」を　行い、児童の心の変化を見逃さない。 ・登校状況や体調などについて養護教諭や教育相談担当で情報交換を行い、気になる児童については早めに担任に声をかけ、相談しやすい環境を作る。さらに、悩みを抱える児童や保護者とSCやSSWをつないで連携して問題解決を図る。
	○特別支援教育の推進	全ての子どもにとって学びやすい環境づくりができているか。	・児童の見取りをもとに、集団や個別の支援につなげる。	・学級集団の実態に応じた指導法や環境作りについて研修を行っていく。 ・特殊音節や読みのアセスメントを行い、個別の支援につなげる。

③　体：げん気（のびのびと活動できる安全・安心な学校を作る。）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体つくり	体力の向上や健康の保持増進を意識した実践ができているか。	・外遊びや体力作りに関する児童用アンケートを実施し、その達成率を90%以上にする。	・体育委員会からの放送や担任からの呼びかけを行い、外遊びを奨励する。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす。 ・スポーツチャレンジを奨励し、学校全体で取り組む体制作りをする。
	○食育の充実	子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けているか	・毎日朝食を食べる児童を90%以上にする。 ・自分自身で食材を選んだり、調理する力を身に付けさせる。	・食の大切さに気付かせるために、食育の授業を計画的に行う。　・栄養や食材に興味関心を満たせるように、赤・黄・緑の栄養素について広報等の工夫や指導を行う。 ・食への興味関心を持たせるよう、バランスを考えた給食献立を子ども達に考えさせる。
	○安全の確保	子どもの安全確保のための危機管理体制は整っているか。	・保護者用アンケート項目「学校は安全対策ができているか」の達成率を95%以上にする。	・様々な事故、災害等を想定した避難訓練、防犯教室等を計画的に実施する。 ・各訓練等の効果が上がるように、地域・保護者や関連機関に協力を依頼し、子どもを見守る体制を作る。 ・学校が取っている安全対策を具体的に保護者に知らせる。

④業務改善を図るとともに、情報発信、地域との連携に努め、開かれた学校づくりを推進する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・時間外勤務の平均値を30時間台にする。 ・定時退勤日毎週金曜日に設定し、実施率を50%台にする。	・毎月第3週目をノー残業推進週間とし、職員に積極的に呼び掛ける。 ・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを有効的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、チームとして対応できるようにする。
教育活動	○体験活動の充実	子どもが生き生きと体験する場が設定できているか。	・各学年年間1回以上、子どもが意欲的に体験する場ができるようにカリキュラムマネジメントを行う。 ・学校ボランティア代表者と事前の打ち合わせ等を十分に行い、取組を充実させる。さらに、事後活動を充実させる。	・教職員間で、体験活動の情報を交換する場を設ける。 ・学校ボランティアの方々の協力を積極的に活用する。
学校運営	○地域連携・幼小中連携	地域と共に取り組む学校づくりができているか。	・地域や保護者が参加し易い、参加したいと思えるような教育活動を計画する。 ・各学年で魅力ある体験活動を仕組み、地域人材を積極的に活用していく。 ・中学校との連携は9年間というスパンを見据えながら計画を立て、内容の充実も図っていく。	・学校ボランティアの協力体制を深めるために、地域との交流ができる内容を工夫し、PTAや地域の会議などで協力を仰ぐ。 ・西唐津中学校と授業参観や研修会を持ち、情報や方策を共有する。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目